

校長室だより

国立市立国立第七小学校 校長 森田弘文

平成25年4月12・16・18日 号外

家庭学習のすすめ



家庭学習が、なぜ必要なのかというおね？

学校では基礎・基本の学習に力点をおいた指導を行っておりますが、学習した事を身につけるためには、「繰り返し」学習することが必要です。さらに学校では、「自ら学ぼうとする力と学び方」を身につけさせることにも力を入れていきます。家庭学習は、学校で学習したことを確かめる、思い出す時間としてとても大切なもの、必要なものです。

一日の生活の中に家庭学習の時間を確保しておくというのは、子どもが身につけるべき基本的な生活習慣の一つでもあり大切にしたいものです。また、「読書タイム」を決め、テレビを見ない「ノーテレビタイム」・ゲームをしない「ノーゲームデイ」で、本を読む習慣も小学生のうちから身につけさせたいものです。



一日の家庭学習の時間のめやすは、どのくらいなのでしょう？

「10分×学年+10分」をめやすに家庭学習が行われるようになってほしいと思います。学習時間は時間の多少にかかわらず、継続することに意味があります。

お子さんのやる気、自主的な取り組みを認めてあげながら、励ましていただければと思います。

学 年	時間のめやす
1・2年生	20～30分
3・4年生	40～50分
5・6年生	1時間以上



家庭学習をする時、どんなことに気をつけたいのでしょうか？

① テレビを消して学習しましょう

「机の前にすわる習慣のあるなしが実力を分ける」と言われます。決めた時刻に決めた時間だけ机に向かう習慣を身につけることは、時間がかかります。

低学年のお子さんの場合、「机で勉強しなさい」だけでは、うまく進めることができません。食卓を使って、親子一緒に楽しむ気持ちで習慣づけを行っていただけたらと思います。短い時間でもテレビを消して、学習に集中することが大切です。

② 遊ぶ時間とのメリハリをつけて学習しましょう

お子さんと話し合っ、家庭学習の計画を立てる場を作っていただきたいと思います。新学期の今がチャンスです。その際、勉強を無理強いするのではなく、遊ぶ時間とのメリハリをつけて、お子さんが納得のいく家庭学習となるように配慮して下さい。

③ 上手にほめて伸ばしましょう

同じ学習でも、「やろう」と思っで行うのと、「いやだ」と思っで行うのでは結果に大きな差が出ます。子どもが「やろう」と決意して学習に取り組むようにすること、つまり、子どもの「やる気」を起こさせることが大切です。

子どもがやる気になるのは、いったいどんな時でしょうか。それは「ほめられた時」が一番ではないでしょうか。人は、誰でもほめられれば嬉しいものです。ほめられることで自信が付き、「もっとがんばろう」という意欲もわいてくるものだと思います。

家庭学習のてびき



低学年・中学年と
どこがちがうのでしょうか？

(5・6年生バージョン)

低学年では、担任から出された課題を中心に、家庭学習を進めてきました。
中学年では、学習したことをもとにして、自分なりの課題を見つけ、自主的に
してきました。高学年では、復習を中心にしながらも、自分なりの疑問に思ったことを調べたり、
予習したりすることが大切です。



どんな内容を学習すればよいのでしょうか？

どのようにやればよいのでしょうか？



1 音読・読書

教科書や学校で学習している文章を、声に出して読むことはとても大切です。いろいろな文章をすらすら読めないと、国語だけでなく他のすべての教科の学習で困ることになります。

また、読書は、楽しんで読んでいくうちに多くの国語の力が身につく、素晴らしい学習方法です。家庭で、みんなで読書する時間を設けたり、好きな本を紹介し合ったりしてみると楽しい家族の時間になります。

2 漢字や計算の練習

高学年では漢字の量も多く難しくなってきます。小数の計算や分数の計算など、計算の種類も多く複雑です。学習したらすぐに何度も繰り返し練習して、身につける必要があります。毎日少しずつでもよいので、継続して学習することがとても大切です。その際、ただ繰り返して学習するだけでなく、問題を作って、後で解いてみるなど、方法を工夫することでさらに力がつきます。

3 予習・復習

- (1) 予習：語句の意味調べなど、事前に予習することで、よりよく理解できる学習があります。高学年になったら、ぜひ、予習にも取り組ませたいものです。
- (2) 復習：学習内容の理解を確かにするためには、復習が大切です。社会や理科の学習などでは、授業で学習したことをまとめ直してみると、よりよく理解でき、大事なことを覚えることもできます。

4 その他

- (1) 日記・作文：生活の中で見つけたことや考えたこと、テレビや新聞で見て感じたことなどを、だれに伝えるかを考えて書いてみる。
- (2) 観察や調べ学習：動物や植物・天気や気温・地層や星など、関心のあるものを設けて観察・記録してみる。また、ニュースや新聞を読んで疑問に思ったことを調べてみる。

読書タイム：テレビ消して () 分

NO ゲーム DAY () 曜日

おうちの人と話し合って、時間や曜日を決めましょう。

家庭学習のてびき



低学年とどこがちがうのでしょうか？

(3・4年生バージョン)

低学年の家庭学習は、学校から出された課題が中心になりますが、中学年では、自主学習に力を入れさせたいものです。この学年での学習の習慣化が高学年・中学年への基礎となります。



どんな内容を学習すればよいのでしょうか？

どのようにやればよいのでしょうか？



1 音読

音読は、文章の意味を正しく理解する上で、とても効果的です。また、声に出して読むことは、表現の素晴らしさや日本語の美しさに気付くことができます。毎日、継続することが大切です。

中学年では、教科書の音読だけでなく、他の物語や詩などにも挑戦させてみましょう。家族と一緒に読んだり、後について読んだりするなど「音読タイム」を設けてみるとよいでしょう。ちょっとテレビをがまんするだけで、楽しい家族の時間になること間違いありません。

2 漢字の読み書き

中学年では学習する漢字の量が多くなります。正確に覚えるために漢字ノートを使うなどして丁寧に書かせたいものです。同じ漢字だけを何回も練習するのではなく、熟語探しをしたり、文章の中に取り入れたりすると、楽しくしかも効果的に学ぶことができます。

中学年では計算の基礎といえる整数の四則（たし算、ひき算、かけ算、わり算）の学習が中心となります。計算機の時代と言っても数を理解する上では四則の計算は欠かせません。また、計算の速さも大事です。時間を決めて挑戦するのもよい方法です。

3 計算練習

その他として次のような学習もあります。工夫して取り組んでほしいものです。

(1) 復習

今日、学習したことを復習して、「はてな？」と思ったことを調べる。

(2) 日記・作文

生活の中で見つけたことや考えたことを、だれに伝えるかのかを考えて書く。

(3) 観察や調べ学習

動物や植物、天気や気温など、関心があるものを続けて観察・記録する。また、ニュースや新聞を読んで疑問に思ったことを調べてみる。

読書タイム：テレビ消して（ ）分

NO ゲーム DAY（ ）曜日

おうちの人と話し合って、時間や曜日を決めましょう。

家庭学習のてびき



低学年では、何を学習するのでしょうか。

(1・2年生バージョン)

低学年では、担任から出された課題を確実にさせたいものです。低学年のお子さんの場合、学習机に座らせて、「勉強しなさい！」だけではうまく進めることができません。習慣づけに時間がかかりますので、食卓などを使って、親子一緒に楽しむ気持ちで行っていただけたらと思います。



どんな内容を学習すればよいのでしょうか？

どのようにやればよいのでしょうか？



1 音読

書かれている文章を声に出して読むことは、正しく意味を理解する上でとても効果的です。また、表現力の育成という面からも、毎日継続させることが必要です。大きな声で、はっきりと、正しく読めるようになるといいですね。お子さんの音読を聞いてあげたり、一緒に読んであげたりすると、大きな励みになります。短い文章なら、暗唱にもチャレンジさせたいものです。

2 漢字の読み書き

1年生でも学年の半ばころから、漢字の学習が始まります。形の整った字で筆順や筆の運びにも注意しながら書くことが大切です。同じ漢字を何度も練習するだけでなく、文章を書きうったり、作文に積極的に使ったりすることで身に付きます。

3 計算練習

低学年の計算練習は、計算の仕方を身に付けることだけでなく、数に慣れさせることが「大事」です。たくさんの計算に取り組むことで、数に対する感覚を養うことができます。

4 その他

その他として次のような学習もあります。楽しく取り組んでほしいですね。

- (1) 心に感じたことやその日のできごとを日記に書く。
- (2) 生き物や草花について、調べたことを「書く」。
- (3) 本を読んで、感じた気持ちを書く。

読書タイム：テレビ消して（ ）分

NO ゲーム DAY（ ）曜日

おうちの人と話し合って、時間や曜日を決めましょう。